

2022（令和4）年6月16日

株式会社グリーンパワーインベストメント  
代表取締役社長 坂木 満 様

日本イヌワシ研究会（SRGE）  
会長 須藤明子

## 「(仮称) 余呉南越前第一・第二ウィンドファーム発電事業 環境影響評価準備書」 に対する意見

日本イヌワシ研究会は、1981年の発足以来、わが国で絶滅の危機にあるイヌワシの調査研究と生息地保全に取り組んでいます。当会の調査研究によって、国内に生息するイヌワシの繁殖成功率が10%台にまで低下していること、既知の生息地から消失してしまったつがいが、これまでに120つがいにのぼること等が明らかとなっています。

事業が計画されている高時川ならびに日野川の源流部は、イヌワシならびにクマタカの生息地、すなわち生物多様性が保全された自然度の高い地域であることが、従前から知られています。貴社の環境影響評価の調査においても、その一端を再確認されたことが準備書から読み取れました。しかしながら、当地域の自然環境の価値について、広域を俯瞰した評価がおこなわれていません。そのため、当計画が生物多様性保全と再生可能エネルギー推進とのバランスを欠いた計画であることが認識できていません。

### 1. イヌワシへの影響について

当計画の事業実施想定区域から10km以内に2つがいのイヌワシの営巣地があります。岩手県のユーラス釜石広域ウインドファームでは、巣から18km離れた場所でイヌワシの衝突死が発生しており、当計画では、衝突死をはじめとする重大な影響が避けられないと考えるべきです。

猛禽類では、幼鳥が巣立ちした場合と巣立ちに至らなかった場合では、行動や利用場所等が異なります。そのため、猛禽類保護の進め方（環境省2012）では、「繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期」の調査を実施すべきとされています。準備書の調査期間（2018年11月～2020年11月）では、これら2つがいのイヌワシは、いずれも繁殖に失敗し、幼鳥が巣立ちしていないため、繁殖成功年の情報が欠落した状態であり、影響を評価するには不十分です。

計画地に生息しているイヌワシ2つがいのうち、滋賀県内に生息している1つがいは、特に繁殖成績が良く、イヌワシの繁殖成功率が全国的に低い状況にある中、非常に重要なつがいです。また現在、滋賀県内に生息するイヌワシはわずか4つがい、近畿全体でも9つがいが生息するのみです。イヌワシが生息している場所は、最後に残された自然度の高い場所であることは明白であり、計画地に近畿最大のブナの自然林が広大に残されていることもこれを裏付けています。

準備書では、計画地が、広域を俯瞰して特に重要な残すべき自然環境であることを適切に評価できていません。

## 2. クマタカへの影響について

準備書では、クマタカの年間予測衝突数が、0.4679回と算出されています。これは、計画地に生息するクマタカが、2年に1羽の割合で衝突死することを示しており、極めてリスクが高いと言えます。

対策として目玉シール等が提案されていますが、霧の発生時や降雨の際には目玉シールは視認できません。また、鳥類は学習効果が高く、忌避行動は一時的なものであることが知られているため、効果は一時的なものにとどまり、衝突死を避ける対策としては、極めて効果が低いと考えるべきです。

## 3. 再生可能エネルギー推進と生物多様性保全とのバランスについて

日本生態学会は、2021年3月に公表した「再生可能エネルギーの推進と生態系・生物多様性の保全に関する基本的な考え方」において、以下のように指摘しています。

気候変動対策と生物多様性保全は、ともに将来世代の利益につながる重要な問題であり、一方の問題解決のため、もう一方を犠牲にすることは望ましくない。気候変動対策と生物多様性保全のいずれもが両立するような最適解を見つけることが望ましい。そのためには、再生可能エネルギー施設を検討する段階において、生物多様性保全上重要な地域や猛禽類の生息地や渡り鳥の移動ルートなどをあらかじめ回避することにより、生態系や生物多様性に配慮した立地選定をすることが最も重要である。

計画地は、近畿最大のブナ林が広がる生物多様性保全上重要な地域であり、希少猛禽類のイヌワシならびにクマタカの生息地であり、渡りのルートでもあります。すなわち、当計画地は、日本生態学会が指摘する「あらかじめ回避すべき場所」にあたります。当計画によって得られる気候変動対策としての効果に対し、喪失する生物多様性が大きすぎて自然環境への影響が甚大であるため、非常にバランスの悪い計画と言えます。

## 4. 説明会等の実施について

2022年5月25日に余呉文化ホールで開催された住民説明会の場において、複数の住民から調査の不備ならびに説明不足が指摘され、貴社は今後さらなる説明と対話の場を設けることを表明されました。このことについて、真摯に対応することを求めます。

以上より、日本イヌワシ研究会は、**配慮書・方法書の意見に引き続き、（仮称）余呉南越前第一・第二ウィンドファーム発電事業に対して、「中止」を含む抜本的な見直しを求めます。**  
また、勉強会やシンポジウムの開催などを通じて、広く市民の意見を聞く機会を持つことを求めます。

### 【連絡先】

日本イヌワシ研究会事務局 沖 浩志（事務局長）

〒294-0025 千葉県館山市大戸 37

TEL : 070-1410-8808 Email : okitegami\_zone@yahoo.co.jp